

夜景サミット 2017in タイ 報告書

長崎市議会議員 浅田 五郎

《はじめに》

長崎市は、これまで北海道の函館市と神戸市と日本三大夜景として認められていました。それが、平成 27 年 10 月には札幌市と神戸市とともに「日本新三大夜景都市」に認定されました。

平成 24 年 10 月には、夜景サミットで香港、モナコとともに「世界新三大夜景都市」に認定されました。

これまでの「旧世界三大夜景都市」がどこの都市であったかは報告がありません。

長崎市は、日本ならびに世界の新三大夜景都市に認定されたのですから、この機会に世界に長崎の観光の魅力を発信する為に行動することに致しました。

これまで、観光コンテンツを図る場所として、一般社団法人夜景観光コンベンション・ビューロー主催による香港（2013 年）、台湾（2014 年）、ベトナム（2016 年）に続いて「夜景サミット 2017in タイ」が開催されましたので、市議会として行政とともに夜景サミットに参加致しました。

《日程》

2017 年 7 月 5 日から 7 月 8 日までの 3 泊 4 日でバンコクを視察致しました。

第 1 日（7 月 5 日） 福岡空港発でスワンナプーム国際空港に 14 時 55 分着
前夜祭、バンコク市内夜景視察

第 2 日（7 月 6 日） JETRO（日本貿易振興機構）バンコク事務所訪問
「夜景サミット 2017in タイ」（セミナー）参加
意見交換会（関係者・メディア）

第 3 日（7 月 7 日） 水上マーケット（海上市場）視察
アユタヤ遺跡視察
夜景観賞（バイヨークスカイホテル 79 階より）

第 4 日（7 月 8 日） 午前 0 時 50 分にスワンナプーム国際空港発
午前 8 時 00 分に福岡空港着

以上の日程で視察し、日本から夜景サミットに参加していたのは、栃木県足利市、北海道札幌市、静岡県伊東市、神奈川県藤沢市、新潟県妙高市の各都市でした。

(所感)

タイの人口は約 6,800 万人、ASEAN の中で、インドネシア、フィリピン、ベトナムに次いで 4 番目で国土面積は日本の 1.4 倍となっています。

タイの人口構成 (2015 年) は、20 歳未満人口で 24.2% と若年層の人口の割合は少なく、既に 65 歳以上が人口の 10.5% と高齢化社会となっていることに驚きました。

若年層が減少している分、外国人労働者が約 400 万人とも言われているようで、我が国の方向も、同じ方向に向いているのかと感じました。

首都であるバンコクでの 2 泊 3 日でしたが、東京並みの一極集中で、その街の動きを見る限り高齢化社会では、元気な国力を感じました。

教育制度は日本と同じで 6-3-3-4 年制で初等教育及び前期中等教育が義務教育であり、進学率は高校進学も 8 割で、大学は首都バンコクに集中しており、若者の多くいる都市を見ることができ、高齢化の国を理解することは無理な状況でした。

経済にしても、タイ経済は、GDP は日本の 8.2 倍、1 人当たり GDP は日本の約 15.1%、その構成比は 2 次産業約 36%、3 次産業約 56%、1 次産業 8% (1 次産業の就業人口は約 33%) で、タイ経済の高度化を図る為には 1 次産業の就業者の割合を減らし、付加価値の高い製造業やサービス産業の就業者の割合を高めることが急務となっているそうです。長崎市の経済はというと、同じことが言えるのではと思いました。

JETRO バンコク事務所を訪問して、日本の経済の振興に対して、第一線で努力していることを、より理解することができました。

国際観光都市長崎市の状況は、長崎の名前は過去の長崎人の努力で、交通網が海上であったから、大陸に近い長崎の有利性があつたおかげで発展してきました。

函館市は、日本新三大夜景都市から外れましたが、年間 500 万人が訪れる観光都市です。歴史ある街並みや海の幸のほか、美しい夜景にも恵まれ、3 年連続で「日本で最も魅力的な都市」に選ばれました。こうした魅力に加え、人工知能をはじめとした、先進的な情報技術を学べる IT の街に生まれ変わろうとしていることを知りました。

こうした変化の中で新しく街づくりに取り組む都市も参考にして、長崎市を考えていきたいと思います。

これからの長崎は、ただ単に交流人口の増大だけで真の豊かな長崎は維持できるのか。人口減少が異常なだけに何ら政策を持たないままで、いいのか。観光に頼ることは、勿論ですが、市民の定着した街の有り様を考えなければならないことを感じさせられました。